Rで学ぶプログラミングの基礎の基礎

(7) くり返し文



プログラミングについて

- プログラミングとは
 - 人間がコンピュータに命令をすること
 - ▶ R の場合は「ユーザーが R のコマンドをひとつひとつ記述する」作業のこと ⇒ 関数定義!
- R におけるプログラミングのための道具は・・・
 - 変数,ベクトル,関数定義
 - ▶ 条件分岐(if)
 - くり返し (for)





本日のメニュー

- 1. for 文
- 2. for 文+ if 文
- 3. while 文



▶ ある「処理」をくり返し実行する ⇒ for を用いる

```
for (i in 1:くり返し数) { くり返し実行する処理 }
```

「処理」として「変数 x に 1 を足す」を 2 回くり返す例を挙げる

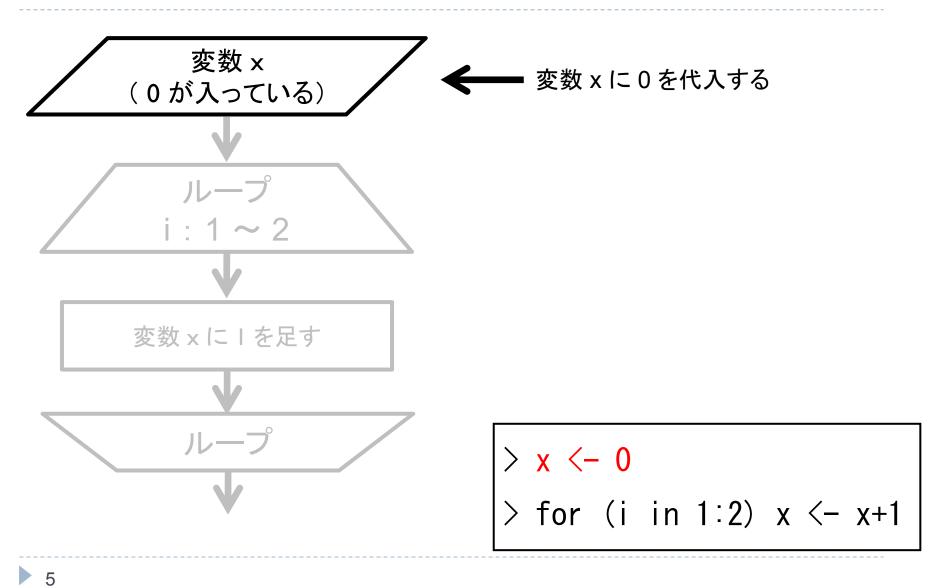
```
      > x <- 0</td>
      # x に 0 を代入

      > for (i in 1:2) x <- x+1 # 「x に 1 を足す」を # 2 回くり返す</td>

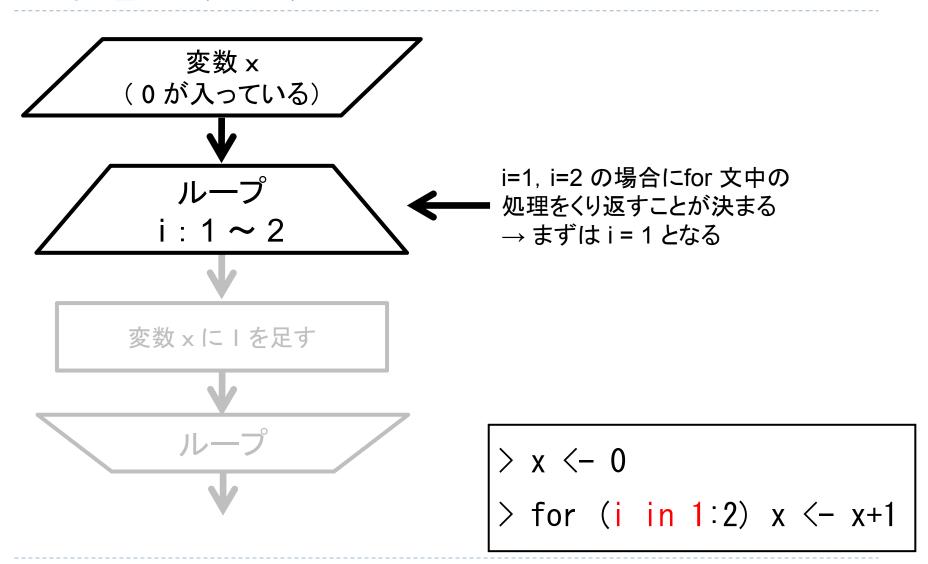
      > x
      # x の中身を確認

      [1] 2
```

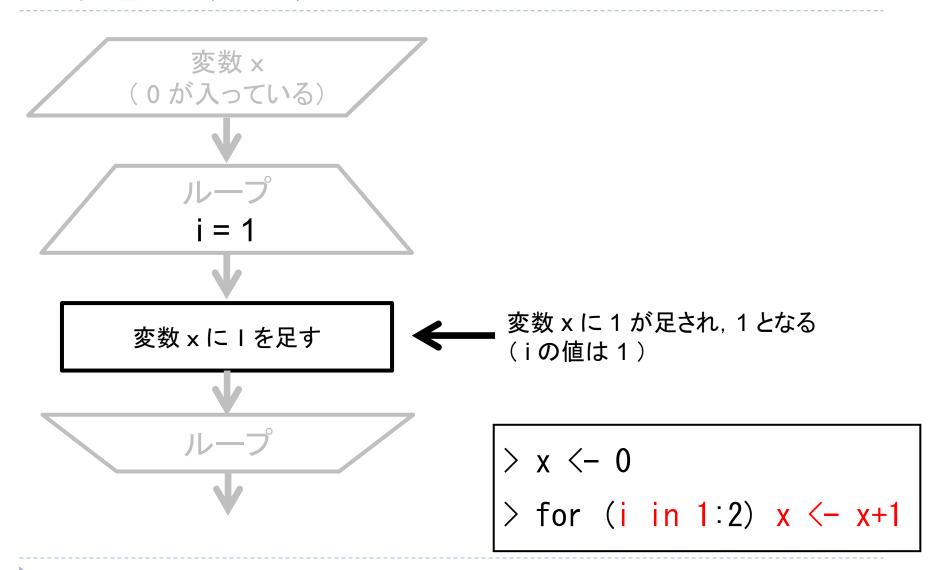




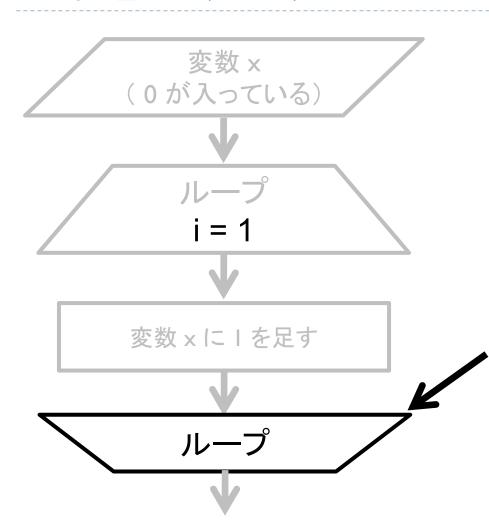








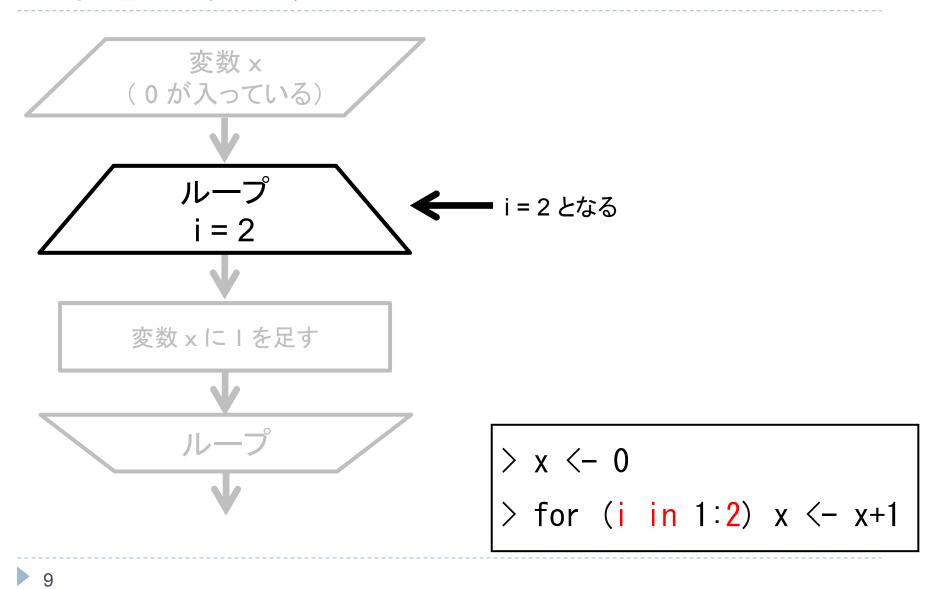




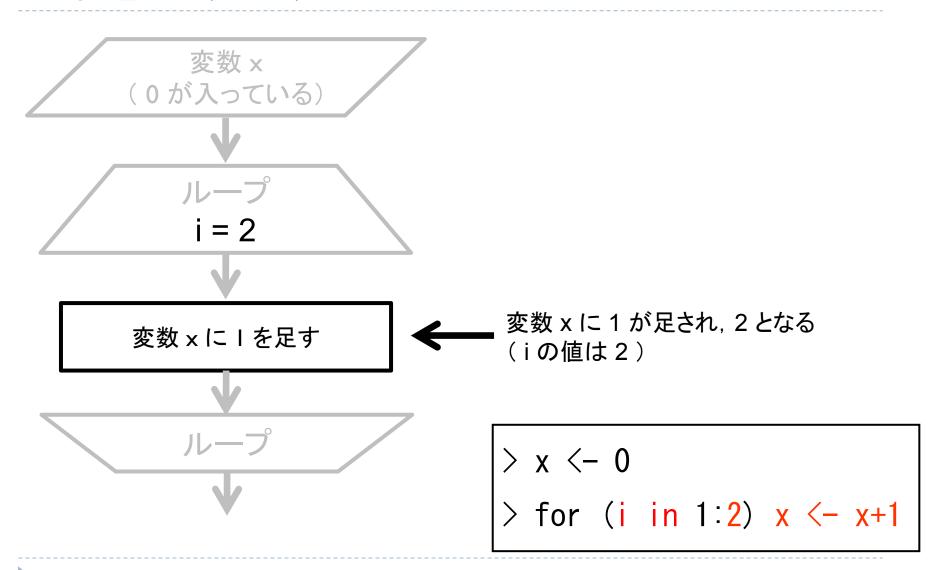
i=1 なので、ループは終了しない → ループの先頭に戻る

- > x <- 0
- > for (i in 1:2) x <- x+1

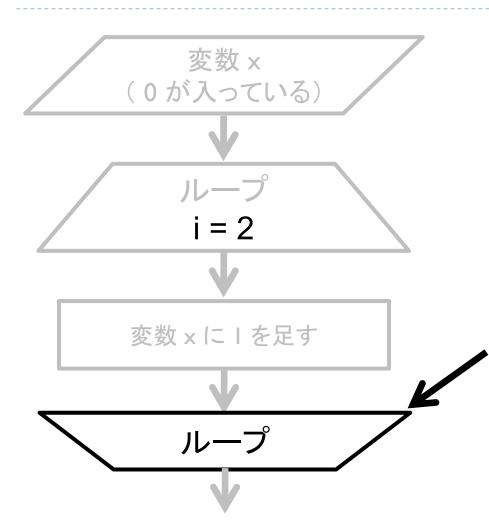












i=2 の処理が終了し、くり返し数の最後なのでループが終了する

- > x <- 0
- > for (i in 1:2) x <- x+1



〔for〕の使用例

「変数 x に k を足す」を 5 回くり返す

```
      > x <- 0</td>
      # x に 0 を代入

      > for (k in 1:5) x <- x+k</td>
      # x に k を足す

      > x
      # x を表示

      [1] 15
```

「ベクトルxにiをくっつける」を5回くり返す

```
    x <- c() # 空のベクトルを用意</li>
    for (i in 1:5) x <- c(x, i) # x に i をくっつける</li>
    x # x を表示
    [1] 1 2 3 4 5
```



本日のメニュー

- 1. for 文
- 2. for 文+ if 文
- 3. while 文



〔for + if 〕の使用例

「1からxまでの間の偶数を全て足し合わせる」という関数 myeven() を定義する

```
> myeven <- function(x) {</pre>
                              # a に 0 を代入
 a <- 0
+ for (i in 1:x) {
     if (<u>i‰2</u> == 0) a <- a+i # <u>i を 2 で割った余り</u>
                              # が 0 なら i を足す
+ return(a)
> myeven (10)
                            # 1~10 の偶数の和
[1] 30
```



演習問題

- 正の整数値 n を入れると 1 から n までの積(n!) を返す関数 myprod1()
 を定義して下さい
- 2. 1以上の奇数 n を入れると 1 から n のうち奇数だけを掛け算した
 - 二重階乗(n!!) を返す関数 myprod2() を定義して下さい
 - \rightarrow 例えば、n=7 のときは「 $1\times3\times5\times7=105$ 」となります



本日のメニュー

- 1. for 文
- 2. for 文+ if 文
- 3. while 文



- while 文は、ある条件が成り立っている間(TRUE の間)はずっと処理をくり返す
- 「ループ変数のリストの個数だけ処理を行うとくり返しが終了する」 for 文と異なり、「条件式が TRUE しかとり得ない」場合は プログラムが永遠に実行され続けて(暴走して)しまうので注意
- ▶ もし暴走した場合は、実行結果が返ってこず、Windows の砂時計の アイコンがクルクル回ります。その時は [Esc] キーを押すことで処理 を止めることが出来る

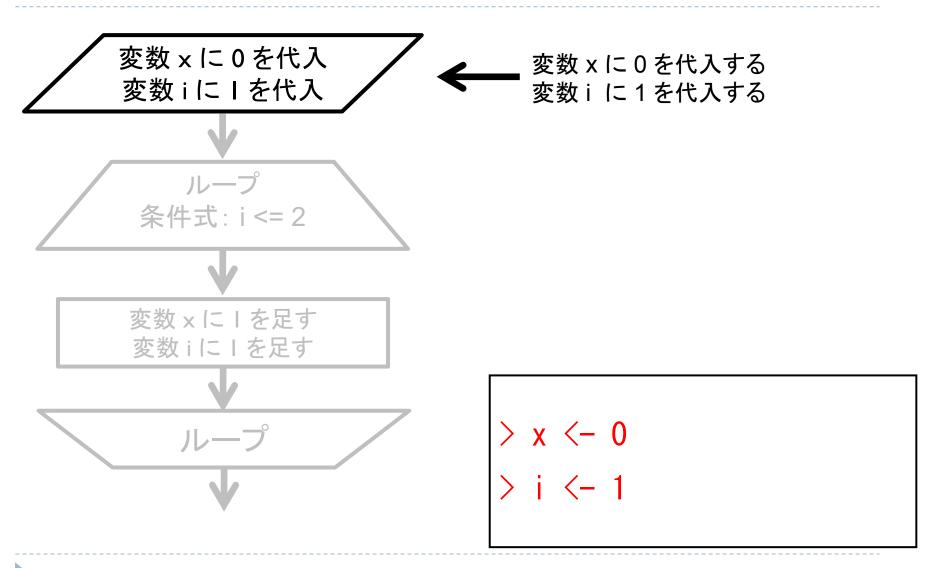
while (条件式) {くり返し実行する処理}



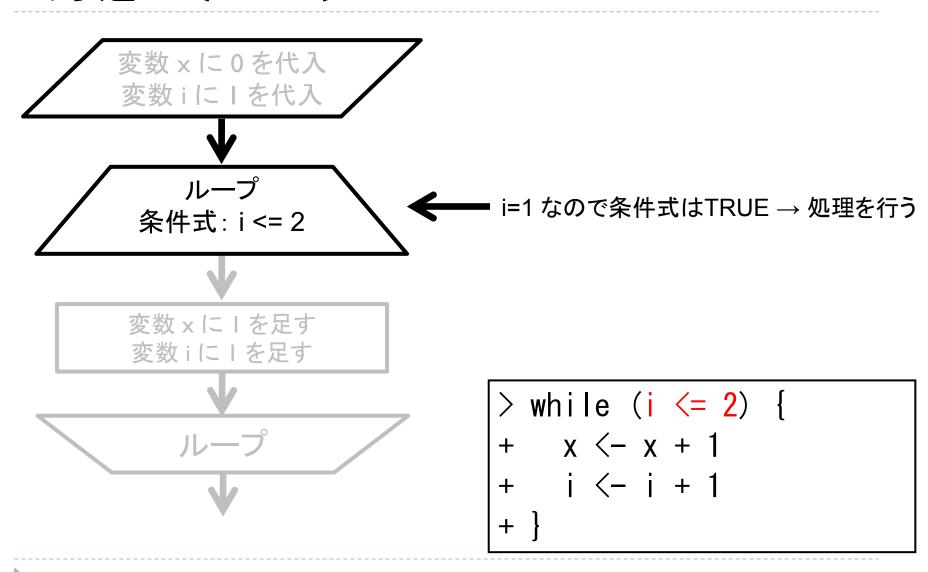
「変数 x に 1 を足す」を 2 回くり返す例を挙げる

```
> x <- 0
       # くり返しを制御するための変数
> while (i <= 2) {
+ x < - x + 1
+ i <- i + 1 # くり返し回数をカウント</p>
```

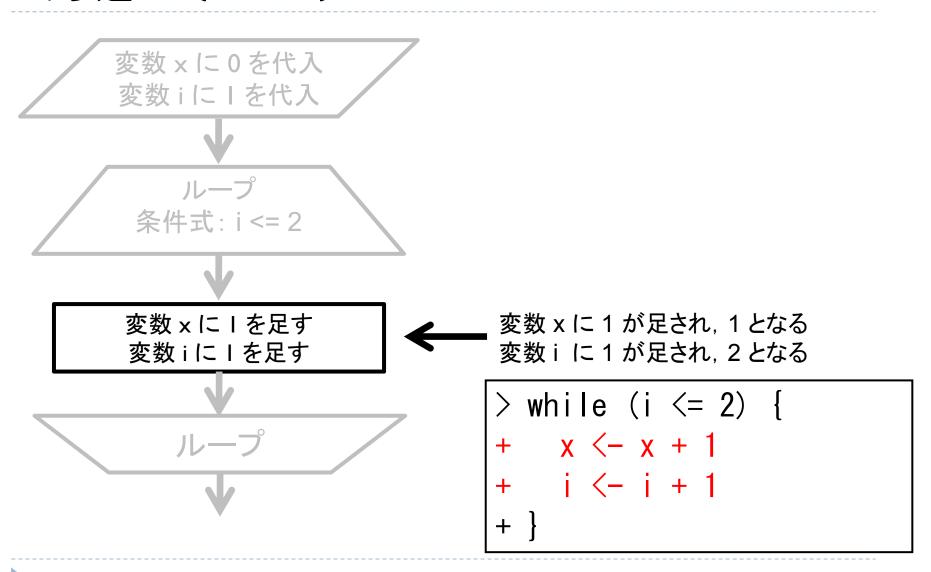




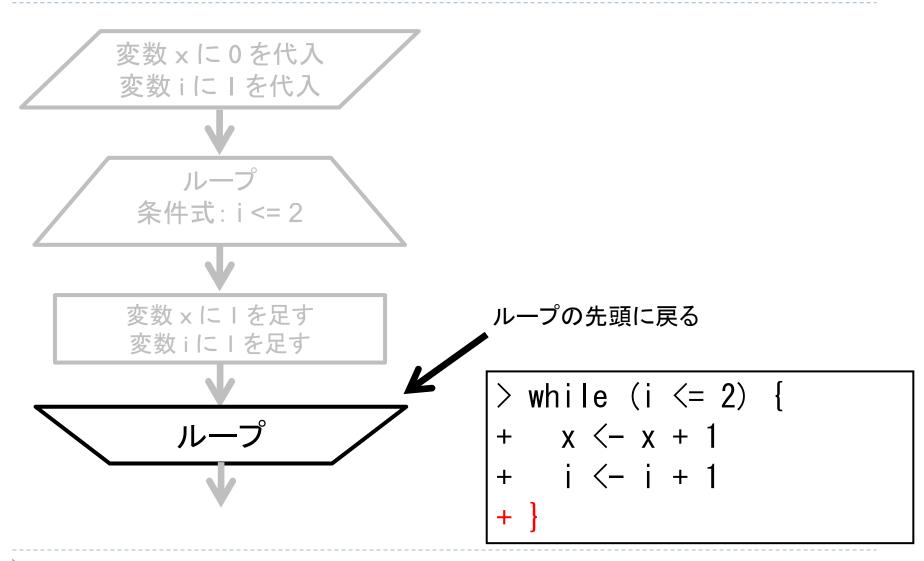




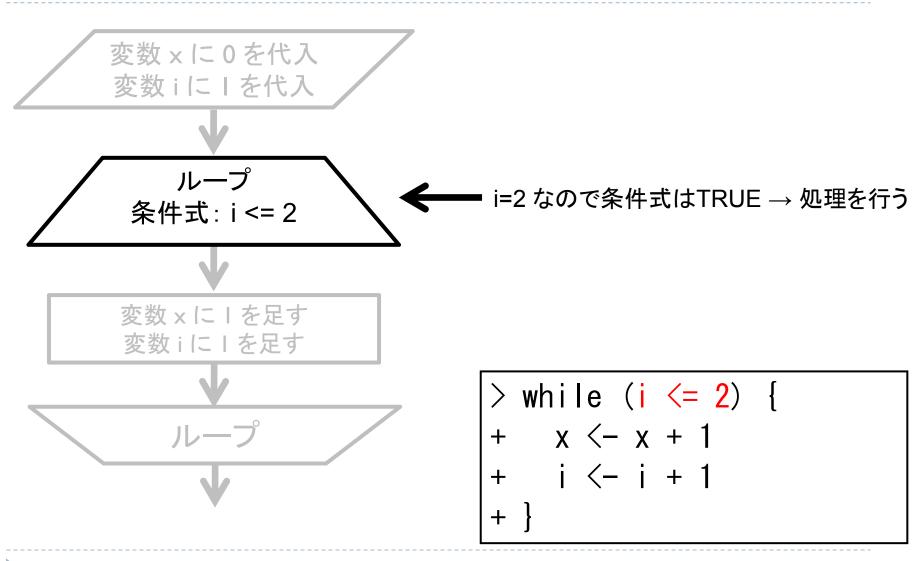




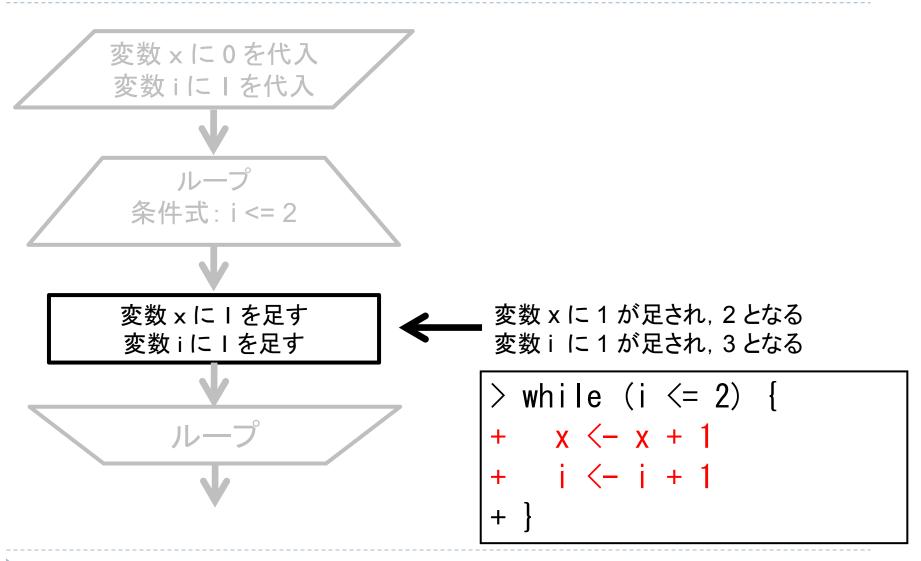




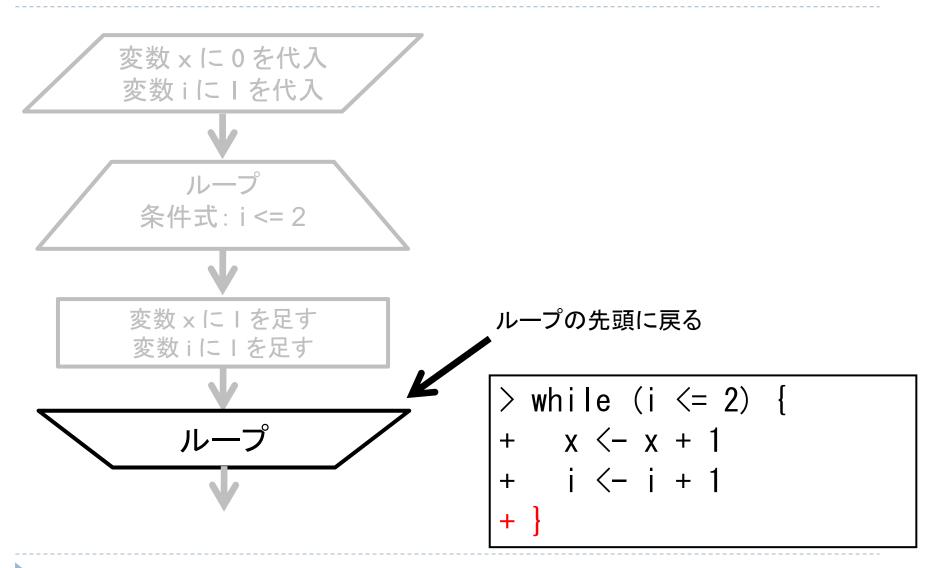




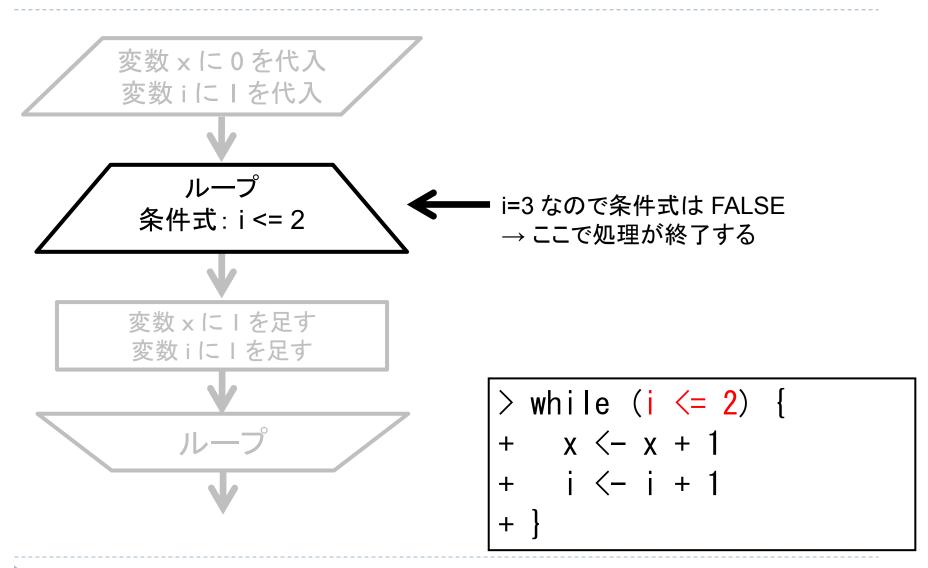














〔while〕の使用例

- ▶ while 文は「くり返す回数が明確でない」ときに威力を発揮する
- 以下の関数 myloop() は実行すると「Y 又は N を入力してください:」 と表示され、コンソール画面上で Y または N を入力するまで 「 Y 又は N を入力してください:」のメッセージが表示され続ける

```
> myloop <- function() {
  flag <- 0
   while (flag == 0) {
      x <- readline("Y又はNを入力してください:")
      if (any(c("Y", "y") \%in\% x))
        flag <- 1
        print("Yes.")
      else if (any(c("N", "n") \%in\% x))
        flag \langle -1 \rangle
        print("No.")
+ }
```



〔while〕の使用例

- 「コンソール画面上で Y または N を入力するまで」ということは ユーザーが何回誤入力をするかが分からない
 - → このような場合に while 文は重宝する

> myloop()

Y又はNを入力してください: a

Y又はNを入力してください: (何も入力せずに [Enter])

Y又はNを入力してください:N

[1] "No."



本日のメニュー

- 1. for 文
- 2. for 文+ if 文
- 3. while 文



このスライドの内容が書籍になっています

▶ 舟尾 暢男 『 R で学ぶプログラミングの基礎の基礎(カットシステム)』

「R と RStudio のインストール」「R の基礎」「変数とベクトル」 「種々のベクトル」「関数の作成」「条件分岐」「くり返し」 「複雑なくり返し」「グラフ作成の概要」「問題集」「簡単なゲーム作成」



Rで学ぶプログラミングの基礎の基礎

